



ベシスト 兼学者の
元郵政官僚

中村 伊知哉さん

22年ぶりのステージは
下半身が動かなかった

元郵政官僚にしてメディア界で話題の「放送と通信の融合」をテーマに研究する学者には、もう一つの顔がある。6月、京都のライブハウスで

寺の「U・F・O・C」でライブに臨む。欧米で活躍する女性ロックバンド「少年ナイフ」のアプローチとして知られる。

を独学で始めた。京大入校後、音楽熱はひとくち。自らのバンドだけでなく、他のバンドにも参加した。

小学生の時、テレビのMのギターの色に魅了された。中一の時、それが名曲「アルシラ」の宮。22年ぶりのステージに。24日は東京・高円寺の「これや」とギターの

「少年ナイフ」の才能を買抜くなど音楽プロデューサーとしても力を発揮。将来は音楽の道に進む少年に会った。



京都市出身。98年、旧郵政省大臣官房総務課長補佐で退官して謎米。スタジアム・フューチャー・日本から研究所長などを歴任。10月から慶応大教授。45歳。

「高価なギターを持つ日、ビール瓶を集めて酒を売っていたのでそれを売って買えるものと言った。少年は「僕にはじ

れ(音楽)しかない」と答えた。その時「勝たない」と思った。ならば、表現者のためのルール作りをどう放送行政などを担当する旧郵政省に。省庁再編に携わったのを最後に退官した。「謎米後、官僚経験には何の権威もないのに気づいた。むしろ少年ナイフ」のアプローチをしたらの方が評価された」と苦笑した。

文・北林晴彦
写真・梅村昌承

H18. 9. 23